

平成小学

「小学」とは宋代の学童教育用の漢籍である。平成小学はその趣旨を汲んで新たに漢籍から名言を抜粋したものである。

論語からの採取で本編を始める。

学まなびて時ときに之これを習ならふ。亦ま
た説よろこばしからずち。

巧言令色いづづげんれいしよく、鮮すく少なし仁。

事ことを敬けいして信しんあり

過あやまちては則すなはち改あらたむるに憚は
ばかるること勿なかれ

学まなびて思おもはざれば則すなはち罔くらし、
暗くらし

思おもひて学まなばざれば則すなはち殆あや危あや心こころし

之これを知しるを之これを知しると為なし、知しら

ざるを知らざると為す。是これれ知るなり

義ぎを見てせざるは勇ゆう無なきなり

祭まつること在いますが如ごとくし、神を祭
ること神在すが如くす。

既往きおうは咎とがめず

仁者じんしゃは能よく人を好このみ、能よく人を悪にくむ

君子くんしは義ぎに喩たとり、小人しょうじん

は利りに喩る。

徳とくは孤こならず、必かならず隣となり有あり。

怒いかりを遷うつつさず、過あやまちを二ふたたびせず。

力ちから足たらざるなり。子し曰いはく、力
 足たらざる者ものは中途ちゆうとにして廢や
 む、今いま汝なんぢは画かぎれり。
 之を知る者ものは之を好このむ者に如しか
 ず。之を好む者は之を樂たのしむ者に如

かず。

人の生いけるや直なおければなり。これ

罔な無なくして生けるは、幸さいはひはにして

免まぬがるなり。

鬼神きしんを敬けいしてこれを遠とくく

知と謂いふべし。

仁者^{じんしゃ}は難^{かた}きを先^{さき}にして獲^と取る^とを後^{のち}にす。仁と謂いふべし。

知者は水を楽しみ仁者は山を楽しむ

知者は動うごぎ、仁者は静しずかなり。

知者は楽しみ、仁者は寿いのちながし。

己おのれ立たたんと欲ほして人を立つ

憤ふんせざれば啓けいせず。悱ひせざれば

発はつせず。一隅いちぐうを挙あげて三隅を
以て反かへらざれば、則ち復ふくせざるな
り。

楽しみ亦その中にあり。

恭きようにして礼れいなければ則すなはち勞ら

うす。慎^{しん}にして礼なければ則ち蕙^すす。

勇にして礼なければ則ち乱^{みだ}る。直^{ちよ}

くにして礼なければ則ち絞^{こう}す。

学は及^{およ}ばざるが如^{ごと}くするも、猶^な

おこれを失^{うし}なはんことを恐^{おそ}る。

意^いなく、必^ひつなく、固^こなく、我^ががな

し。

片意^{へんい}地でなく、強^{きやう}制^{せい}はなく、頑^{がん}固^こでなく、我^わ利^りではな

い

君子^{くんし}之^しに居^おれば、何^{なに}の陋^{ろう}か之^{これ}れ
有^あらん。

後生畏おそるべし

匹夫ひつぷも志こころを奪うばふべからず

知者ちしやは惑まどはず、仁者じんしやは憂うれれえず、勇者ゆうしやは懼おそれず。

立たつに門もんに中ちゆうせず。行くに闕くわつし
きいを履ふまず。

過すぎたるは猶なほ及およばざるが如ごとし

論ろんの篤あつきに是これ与くみすれば、君
子者くんしやか、色しき狂者きやうしやか。

仁^{じん}を為^なすは己^{おのれ}に由^よる。人に
由^よらん。也。

礼に非^{あら}ざれば視^みること勿^{なか}れ。

死生^{しっしょう} 命^{めい}に有^{あり}、富貴^{ふうき} 天^{てん}

んに在あり

四海しかいの内うち、皆みな兄弟けいてい
いなり
きょうだ

信しん 無なくば立たたず

必かななららずや名なを正たださん

小利しょうりを見れば、即ち大事だいじ成ならず

君子は和わして同どうぜず、小人は同どうじて和わせず

君子は泰ゆたかにして驕おごらず、小人は
驕りて泰ならず。

剛毅木訥ごうぎぼくとつ 仁に近し

徳とく有る者は必かならず言あり。言有る

者は必ずしも徳あらず。

仁者は必ず勇あり。勇者必ずしも仁あらず。

貧しくして怨む無きは難く、
富とみて驕る無きは易し。

これを愛^{あい}しては、能^よく勞^{ろう}せしむ
 ること勿^なからんや。忠^{ちゆう}ならば、能^よ
 く誨^{おし}づること勿^なからんや。

久要^{きゆう}平生^{へいせい}の言^{ことば}を忘^{わす}れず

君子は上達じょうたつし小人は下達かたつす。

古いにしえの学者は己の為ためにし、今の学者は人の為ためにす。

詐いつわりを逆むかえず、不信ふしんを億おもんばからず。

驥きは其その力を称しょうし、
 其の徳とくを称しょうす。

与ともに言いふべしと云いふ言ことばは、
 人ひとを失うふ。与ともに言いふべからずして云いふ言ことばは、
 言ことばを失うふ。

人遠とおとおおき慮おもんんばかり無ければ、必かなかな
らず近ちかき憂うれひ有あり

君子は言げんを以もつて人を挙あげず。人
 を以て言を廃はいせず

己おのれの欲ほつせざる所ところ人に施ほどご

すこと勿なかれ

人能よく道を弘ひろむ。道、人を弘ひろむに
非あらず。

過あやまちて改あらためめざる、是これを過あち
と謂いふ

辞^じじことばは達^{たつ}するのみ。

君子は夫^その之を欲すと曰^い心を舍^お置^き
て必ず之が辞^じを為^なるを疾^{にく}む。
憎む。

言^{げん}未^いまだ之^{これ}に及^{およ}ばずして言^{ごん}、

之を躁そうと謂いふ。言之に及びて言わざ
 る、之を隠いんと謂いふ。未だ顔色かおいろ
がんしよくを見ずして言いふ、之を瞽こと謂いふ。
 不善いんぜんを見ては湯ゆを採さぐるが如ごと
 くす

鶏にわとりを割さくに焉いづくくんぞ牛刀ぎゆうとう
 うもちを用もちゐん

恭きようなれば則すなはちち侮あなどられず

縦書きについては、h2v.js バージョン3.1.0を利用して実現してゐます。このライセンスは <http://tategaki.info/h2v/license/> によります。

h2v.js および h2v.css のライセンス

Copyright (c) 2011–2013 tyz@freefielder.jp

以下に定める条件に従い、本ソフトウェアおよび関連文書のファイル（以下「ソフトウェア」）の複製を取得する非営利の個人または団体が非営利を目的とする場合に限り、ソフトウェアを無制限に扱うことを無償で許可します。これには、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、および/または頒布する権利、およびソフトウェアを提供する相手に同じことを許可する権利も無制限に含まれます。

上記の著作権表示および本許諾表示を、ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に記載するものとします。

ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではありません。作者または著作権者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いによって生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。

といふことです。